

視察報告書

発行No. S-140204
作成日 2014.2.10
作成者 市民クラブ 佐原充恭

| | | | |
|-----------------|---|-------|--------------------------------------|
| 視察地 | 東京都千代田区永田町 | 日時・場所 | H26.2.4(火)13:00-17:30 衆議院議員会館及び国会議事堂 |
| 視察テーマ | 国政に関する研修 | | |
| 視察目的 | 衆議院議員や各省庁との懇談を通じ、国政への理解を深める。 | | |
| 視察メンバー (敬称略) | 会派『市民クラブ』メンバー(沖野温志、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、中嶋祥元、鈴木浩二、佐原充恭) | | |

1) これからの介護支援について(講師:厚労省老健局振興課 吉田課長)

議員会館での視察の様子

1. 介護保健制度を取り巻く状況

65才以上の高齢者は2025年に3,657万人→2042年に3,878万人となりピークを迎える。介護保険料の全国平均も現在の約5,000円から2025年には8,200円程度に上昇する見込みであり、介護保険の重点化・効率化が不可避。

2. 介護保険制度の改正について

地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化を柱とした制度改正により制度の持続性を確保していきたい。



| 項目 | 主な改正点 | 問題点 |
|--------------|---|---|
| 地域包括ケアシステム構築 | 生活支援サービスの充実・強化等 | 消費増税財源でどこまで可能? |
| | 全国一律の予防給付(訪問介護・通所介護)を市町村の地域支援事業に移行し、ボランティア活用など支援を多様化。 | 市町村によりサービス格差が発生し、「要支援切り」に繋がる恐れ。介護のプロアマ化懸念。一刻も早く要介護1ならば良いのか? |
| | 特養新規入所者を要介護3以上に限定(要介護1.2でも認知症、精神障害等は除く) | 既入居者との不公平感発生。 |
| 費用負担の公平化 | 一定以上の所得のある利用者の自己負担引き上げ | 本人だけでなく家族への負担、打撃になる。 |

所感：高齢者を地域全体で支える意味で地域包括ケアシステムの推進は必要。国はサービスを低下させないノウハウや人材確保の具体的方策を自治体に提供するとともに、現場の意見にもよく耳を傾けるべき。刈谷も動向をしっかり注視し、市民の不安の払拭に努めて欲しい。費用負担改定により今後値上げがじわじわと進む事が懸念される為、健康づくりや生きがいづくりなど、介護認定者の更なる低減活動が必要だと感じた。

2) 中小企業支援と産業の空洞化対策について(講師:中小企業庁 来島課長補佐・田中参事官補佐)

1. 中小企業投資補助制度の最近の事例

| 制度名称 | 対象物・分野等 | 補助・支援内容 |
|-------------------------|---|---|
| ① 生産性向上設備投資促進税制 | 先端設備・・・旧モデルと比べて年平均1%以上生産性を向上させる最新モデル | 即時償却又は5%税額控除 |
| | 生産ラインやオペレーションの刷新・改善・・・設備投資計画上の投資収益率が15%以上 | |
| ② ものづくり・商業・サービス革新補助金 | 試作品・新商品などの開発や生産プロセスの改善、事業革新など | 総資産の15%を超える設備投資を行う場合に借入額の1%相当額を補助。上限1,000万、特定分野1,500万 |
| ③ 創業促進補助金(第二創業も対象) | 創業を目指す方等 | 創業費用の2/3補助 上限200万円 |
| | 市町村と連携する創業支援事業者(商工会議所等)による経営相談の取組み | 取り組みに対する補助 上限1,000万、補助率2/3 |
| ④ 中小企業・小規模事業者海外展開戦略支援事業 | 海外進出した中小・小規模事業者 | 海外現地にワンストップ相談窓口(ジェットロ)を設置し、移転、撤退などの法務・労務課題を支援 |

所感：中小企業庁は予想以上にきめ細かい補助を行っていた。例えば制度①は、企業への補助制度だが、メーカー側も自社製品が補助対象になれば販促につながるの、売る側・買う側双方にメリットがある。また、器具・備品は120万円以上、機械類は160万円以上と、比較的小額投資でも補助対象になる。刈谷もこの価格水準を参考にすべき。良い機会なので、私からは設備等の廃却・撤去・整理統合等に伴う費用補助制度や、海外進出時の投資補助制度の創設を要望した。

視察報告書

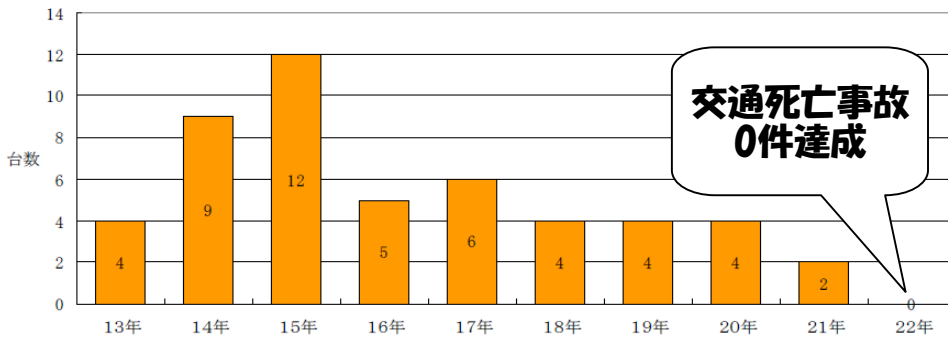
| | |
|-------|------------|
| 発行No. | S-140205 |
| 作成日 | 2014.2.10 |
| 作成者 | 市民クラブ 佐原充恭 |

| | | | |
|-----------------|---|-------|---------------------------|
| 視察地 | 東京都港区 | 日時・場所 | H26.2.5(水)9:30-11:00 港区役所 |
| 視察テーマ | 第9次交通安全計画について | | |
| 視察目的 | 『自動車部品産業のまち刈谷』の更なる交通安全活動推進にあたり、都心部の取組みを視察。 | | |
| 視察メンバー (敬称略) | 会派『市民クラブ』メンバー(沖野温志、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、中嶋祥元、鈴木浩二、佐原充恭) | | |

1) 港区の交通死亡事故状況

■ 死者(人) 出展: 第9次港区交通安全計画

港区役所での視察の様子



2) 港区の交通事故の傾向・特徴

発生件数、死者数、負傷者数とも減少傾向。高齢者の死者はここ数年発生していないが、負傷者数は増加傾向にある。自転車の負傷者数は30歳代と40歳代で増加。また、港区には麻布や赤坂など都内有数の繁華街があり、タクシーが関与する事故が多い。H22年度の全事故件数に対する関与率は41.1%で、都内平均15.1%を大きく上回っている。

3) 第9次交通安全計画について

1. 目標

死傷者数は減少傾向とはいえ2千人台となっている。死傷者数をゼロに近づけるとともに、死者ゼロを堅持する。

2. 重点課題

① 高齢者の交通安全の確保

高齢者への交通安全教室・啓発活動及び歩道や公共交通のバリアフリー化を推進。

② 自転車の安全利用の推進

運転マナー向上、放置自転車をなくす、交通安全教育及び幼児ヘルメット着用等の活動を推進。

③ タクシー事故の防止

タクシー関与事故の低減は急務かつ必須。タクシー運転手や業界への啓発・指導及び取締り活動を推進。

④ 二輪車事故等の防止

二輪車の無謀運転等防止のための交通安全教育、交通規制・取締り、暴走族追放等の活動を推進。

⑤ 飲酒運転の根絶

飲酒運転は故意的で悪質かつ事故を起こせば死亡率が高い。根絶を目指し教育や取締りを推進。

3. 計画の推進

交通安全連絡協議会を中心に密接に連携をはかり、総合的かつ効果的に推進。

4) さはらの質問「通学路等へのカラー舗装の推進状況について」

A: ガードレール設置が概ね完了しており、カラー舗装を特別に進めている事はない。必要であれば地域の要望に基づき対応している。通学児童の見守りはシルバー人材センターに委嘱している。

5) 特記事項

○「こうなんの星公園駐車場」の地下機械式自転車収納システム

登録車を入口にセットし、カードをタッチすると自転車が吸い込まれ、ICタグの指定場所に収納される。放置自転車低減はもとより、スマートな外観・省スペースで景観整備に貢献している。スペック等は以下の通り。

- ・地下スペースサイズ＝直径8.5m、深さ15m
 - ・収納可能台数＝204台/1基×5基 計1,020台
 - ・自転車の搬出時間＝約13秒
 - ・費用＝1.5億円/1基 維持管理費＝全体で約7,000万円/年
 - ・納入メーカー＝技研製作所(東京、高知本社)
- 同社の自転車収納システム「エコサイクル®」と思われる。

こうなんの星の公園駐車場



所感: 各地域の実態に即した交通安全対策を講じる必要性を再認識した。通学路のカラー舗装や児童の登下校時の見守りの考え方も刈谷と少々異なっている。今後も機会を捉え、他の市区町村の状況を確認していきたい。地下機械式駐輪場は興味深いが、コスト面や常駐者が必要など設置に至るハードルは高いと感じた。